

## 第一期

# 発展コース報告会

第一期生から発展コースに14名が進みました。発展コースでは昨年の研究力養成コースで行ったテーマを深化・発展させる研究を行います。そして、国際学会や海外研修、学術誌への投稿、科学オリンピックの参加等にその成果を発表していきます。中間発表を7月の第二期生の入校式当日に行う予定でしたが、台風で中止になったため、8月22日の基礎力養成講座の後、当日都合のつく8人のポスター発表を行いました。



聞く側も真剣



先輩方の迫力

すでに他の研究会での発表や海外研修を経験した英語発表もあり、それぞれ研究の内容も深化し、発表態度にも自信が見られ、成長の跡が感じられました。発表を聞いた二期生からはそれぞれの発表について感想が寄せられました。

「無駄になってしまっている熱エネルギーを生かそうとする考えが良いと思いました。また、安全性を求めたシリコンを使っているところが独創的だと思いました」  
 「6300匹のセミを調べたと聞いて、多くのデータが示す傾向はとても説得力があると感じた。色を効果的に用いたグラフは見やすかった」

詳細はFSSWebサイトで！

## FSS海外研修報告

# タイ タマサート大学・タイ国立科学技術開発庁 訪問

FSSでは、8月6日から9日まで、タイ王国にて海外研修を実施しました。参加したのは、第一期の発展コース生4名です。

研修初日はタマサート大学を訪問しました。タマサート大学はタイの屈指の名門大学で、多くの著名人を輩出していることでも知られています。タマサート大学では微生物学や生物工学の研究室を見学したほか、SCIUS-FSS合同研究発表会に参加しました。SCIUSとは、タマサート大学が実施している高校生向けの教育プログラムでいわばタイ版のFSSです。発表会では、FSS、SCIUSそれぞれから3題ずつ英語での口頭発表が行われました。FSSの生徒たちが基礎的な研究内容であったのに対してSCIUSの生徒たちの研究は応用を志向した実学的な研究内容が多いのが特徴でした。

タイ国立遺伝子生命工学研究センターにて



## サイエンス・ハイスクールの皆さんと



2日目は、タイ国立科学技術開発庁 (NASTDA) の、材料科学研究所、生命科学研究所を訪れ、最先端の研究内容の紹介を受けた後、プリンセスチュラポン・サイエンスハイスクールを訪れました。高校に到着し教室に入ると、先生と生徒から熱烈的な歓迎が待っていて大変驚きました。その後、先生や生徒たちと交流しながら、タイの伝統衣装を着て伝統舞踊を踊ったり、タイの文字を学んだりなど、タイの文化について深く知る貴重な体験となりました。

実質2日間という短い間でしたが、参加者からは「世界で活躍したいという気持ちが高まった」という声が参加者全員からあがるなどグローバルな視野を身に着けるための素晴らしい機会となりました。



## コラム：大学の時間割

### 大学って一日10時間も授業があるの!?

これは今回入校式を行った建物に貼られていた「大学の時間割」です。1時限が45分とになっていて、一日にずいぶん「時限」がたくさんあるように見えますね。

しかし、多くの大学では、実際には2時限分をまとめて90分とした枠を「1コマ」として開講しています。コマの途中での区切りはありません。これは、昔の大学で、一部の講義が「2時限」を「1コマ」として開講していたことが他の講義に波及し、最終的にはすべての講義がその枠で運用されるようになったことによります。そのため、現在でも、静大をはじめとする多くの大学では、「1コマ目」を正式には「1・2時限目」、「2コマ目」を「3・4時限目」等と呼びます。

大学教育の変遷の歴史が反映された、ちょっと不思議な風習です。



## 授業時間帯

1時限	8時40分～9時25分
2時限	9時25分～10時10分
3時限	10時20分～11時05分
4時限	11時05分～11時50分
5時限	12時45分～13時30分
6時限	13時30分～14時15分
7時限	14時25分～15時10分
8時限	15時10分～15時55分
9時限	16時05分～16時50分
10時限	16時50分～17時35分